

# 高校生居場所 大学生奮闘

## 横浜に「カフェ」 悩み相談相互に刺激

横浜市立みなと総合高校（中区）の「居場所カフェ」で、ボランティアの大学生たちが奮闘している。企画から運営までを手がけたカフェは、近い世代の生徒に刺激を与えているだけでなく、社会に出る前の学生自身にとっても良い経験となっているようだ。（田川理恵）



教育ニュース

高校生に学生生活について説明する石垣さん（横浜市中区で）



詰め込めたと思ったが、高校生を前にして伝えたいことが次々出てきた」と悔しがる。それでも、「高校生にとって大学生は親しみやすくてはつきりとした『将来像』。気持ちには伝わったはず」と手応えを感じていた。

実際、発表後に大学生を囲んだ高校生たちは「心理学ってどんなことやるんですか？」などと興味深そうに質問し、大学生活のイメージを膨らませた様子だった。

大学生たちの任期は来年3月までで、12月に行われる次のカフェの企画は残りの5人で考えるという。

10月20日午後。同校2階で開かれたカフェは、配られた麦茶やジュースを片手にリラックスした表情の生徒たちでにぎわっていた。

「この中で大学受験を考えたことがある子はいるかな？」

優しく呼びかけたのは、ボランティアの一人で横浜市内立大4年の谷山理子さん（21）。「リアルな大学生活」に触れてもらおうと、他の学生と一緒に1日のスケジュールやサークルの様子についてスライドを使って発表した。

居場所カフェは、大阪の高校が発祥とされ、本来はNPOスタッフや地域の人たちが生徒と交流する中

で悩みに気付く役割などが期待されている。みなと総合高校の場合、公益財団法人「よこはまユース」（同区）が、高校生と近い世代のボランティアを募集。集まった市内在住の大学生10人はボランティア活動に参加する際、「大人が決めた枠」でやることが多い。そうではなく、失敗しながらも本当にやりたいことをやる経験を出た時に役立ててほしい」と狙いを語る。

10月の開催を担当した谷山さんら5人のグループは、「高校生の視野を広げる内容にしたい」と提案。よこはまユーススタッフの塩嶋瑶子さん（34）から「視野を広げるとどんないいこ

「準備段階では思いを全て